



1 連絡会での決定事項

昨年の12月に鎌倉生涯学習センターきらら鎌倉の3階第4集会室で行われた。出席者13名
連絡会の議題の審議と決定事項の詳細は3ページの川戸メモを参照ください。

主な議題：

- 2019年陶研展の会場候補の下見、備品など確認
- 芦野・塩原の土採りなど各自成果物と意見交換
- 次回展示会の集客および広報活動について
- 会計報告

その他 年度総会は無し

川戸さん宅 楽焼焼き大会（4ページに詳細）

生命の星博物館 笠間先生の送別会2月頃に予定

● 陶研究会 2019年度の予定

* 第13回 陶研展示会の場所

- ・ 鎌倉市の生涯学習センターでの開催を検討したが、耐震工事が始まることになり利用不可となり断念、昨年同様港南台のリリースで11月頃の開催を予定。
- ・ テーマ 面白い酒器 変わり種酒器（写真例 右）

* 土採り旅行 湯河原白丁場（写真 右下）、江之浦測候所、伊豆1泊、翌日 伊豆の剥ぎ取り露頭

時期：6月過ぎ

- ① 白丁場石と芦野石の比較 6月過ぎ1泊
- ② 原点会に展示予定の、静岡産ジオ陶・露頭剥取り
- ③ 江之浦測候所見学 小田原市根府川
完全予約制 入場料3千円税別

* 学習会 つくば農業環境変動研究センター見学

時期：7月以降 日帰り 筑波

- ① つくば農研の土壌モノリス館 大倉利明氏訪問
- ② 産業総合研究所 地質標本館見学



2 白井石材再訪報告

11月に陶研萩原会長他3名で白井石材を再訪問。芦野石の焼成結果の報告を中心に萩原の持参した筆線引花器や石材焼成サンプルにより、本小松石との違いを説明。今後も比較研究のための材料提供など協力をお願いしたところ快諾を得た。また黒目白河石と白目芦野石の出現場所と成分分析表による違いの知見を伺うことができた。(写真 右 白井石材内芦野石露頭)



写真上 板状の芦野石の中にある黒目石の礫？



白井石材事務所前記念撮影、中央が社長

3 塩原湖成層 要害公園採土報告

前回塩原化石公園で地層の小塊を入手したが、もう少し大きいものを探す目的で、箒川の上流にある要害公園脇の川沿の崖にて採取できた。ここは化石園の地層と異なり堆積時の年縞はあるが化石はないとのこと。



* あーとモノリス作品募集

2019年の原点会とその後の陶研展に飾る陶壁用の「あーとモノリス」の作品を募集します。自然の土や石、地表を焼いたものではぎ取りに限定しません。寸法は10～30cm位で独創性を尊重します。複数の出品可。7月末までの連絡会に持参ねがいます。集まった作品は約90x180cmの陶壁にして展示予定。各自の作品は陶研展後に返却となります。問い合わせは萩原まで。

- 日時： 2018年12月18日(火) 9:30~12:00
- 場所： 鎌倉生涯学習センター
- 出席者： 萩原、八木、広藤、大熊、中條、川戸、豊島、仙葉、栗林、金子、務川、原、目黒

1. あーとモノリス関連説明(萩原) 経過、芦野石(特性、微粉配布)、
塩原湖成層一訪問記写真紹介(八木)

2. 陶研の展示関連

リリス展示を振り返って、反省、展示会会計報告(八木)

売上金-10%(手数料(配布： 宮澤さん(5400円)大槻さん(2700円)は川戸が預かりました
記事を編集、掲載してくれた陶遊に、会計余剰金の一部から謝礼金を贈ることが承認されました
来年の展示について： 時期は10末~11月の希望が多い、共通テーマ：酒器
場所：候補地であったキララ鎌倉は耐震問題で使用不可となった。よってリリスを候補とする
次回展示会は10月は中旬まで忙しいので、10月最後か11月以降にして欲しい。(豊島、金子)

3. 原点会関連

今年の9月の展示会画像紹介(八木)、

来年の共通テーマ：① 静岡の土石を釉薬に、②酒器

期日： 2018年9月21日(土)~23日(月)

陶研に特別展示の依頼あり幅180cm程(出来れば共通テーマの静岡に関連付けて
特に出展希望者が無かった為、あーとモノリス展示予定(萩原会長)

4. 「陶遊」170号に 第12回陶研展の特集記事が組まれました、12月発売予定です
ひとえに八木さんの尽力のおかげです。
(追記)同号に大槻さんの特集記事が載っております。

5. 来年の土採り(広藤)

学習会としてつくばの大倉氏を訪問してモノリス見学もあり

湯河原の鍛冶屋の白丁場の碎石跡訪問しデイサイトを探す、

12/19に萩原、八木、大熊、川戸で下見をしてきました。

土取りの候補として伊豆地区が上がりました。広藤リーダーの検討を期待します

6. 会員の活動報告

- 萩原会長の個展： 5/16(木)~5/21(火)
- “楽焼をやろう”の提案(川戸)
2019年1月27日(日)、2月14日(木)の2回に分けて実施予定
- 野口窯の窯焚き(大熊)：来年初めに大熊さんが野口さんを訪問、詰めてくれます。

7. 2018年度会費 (2000円)出席者全員から現金で頂きました。

野元さんは原さんが立替払い。横尾さんはリリス展示予定として頂戴した3000円から充当。

振込み納入の方は：ゆうちょ銀行 記号 10910、番号 19391181、口座名 トウケンキュウカイ

赤楽をやろう！ 川戸

Ver.2.0

2018年12月

赤楽焼きは一般には小型の窯で、炭を燃料に、一個ずつ900℃の温度で釉薬を溶かし、引き出して急冷します。今回は煉瓦を積んだ、川戸の手作り簡易窯で、灯油+炭を燃料に一度に4個を焼く計画です

- 胎：急熱急冷に耐える土が必要です
 - 1案：市販の楽焼粘土を使う
 - 2案：普通の粘土に20%(内割り)の珪砂またはシャモットを混ぜる
- 素焼き：本焼きは900℃余りと低いので普通の素焼き(800℃)か、少し高め(900℃)で
- 楽焼き用釉薬(900℃用)を使い刷毛塗りする
 - 楽透明釉：胎土の色が出てくる。赤土：赤楽、白土；白楽
 - 色釉薬：黒色は赤土に、色釉は白土に
 - 川戸の手持ちの色釉は黒、紺、黄色 があります。
- 装飾
 - 赤楽、白楽ともに下絵(呉須、弁柄等)可能
 - 化粧掛け、粉引きに楽透明釉は試したことなし(今回挑戦)
 - 色釉にはマスキング等工夫も可能
- 本焼き焼成
 - 300℃程度の温度にて予熱を加え完全乾燥させる
 - ハサミで窯の焼き台に置く
 - 15~20分で釉薬が溶けたのを確認し、引き出す
 - そのまま冷却するか、籾殻、枯葉などに入れて燻す
- 日程
 - 川戸に素焼きを依頼するなら2019年1月中旬着で川戸に送る(事前連絡のこと)
 - 釉掛け：事前に自分で釉を掛けるか、焼成当日に掛ける
- 候補日：雨天の場合予備日、参加検討表明(須賀・暫定)
 - 2019年1月27日(日)(予備日2月3日)萩原、八木、栗林、原、野元
 - 2019年2月14日(木)(予備日2月28日)務川、中條、井口、柴田、大槻
- 本焼き当日の時間割
 - 当日川戸の家で釉掛けする場合：10時
 - 釉掛けした作品を持参する場合：13時(または弁当持参で12時)
 - 予熱窯の火入れ：10時
 - 本焼き窯の火入れ11時
 - 焼成：13時~16時
 - 16時 品評会/反省会
- 注意：ハサミで摘める形状のこと、直径15cm以内に収めること(皿などはハサミでつかめない)
- 貫入の具合等焼成によって大きく雰囲気異なる。参加者は自己責任で引き出しタイミングを判断する。

川戸